

ヴィクトール・フランクル 「夜と霧」

フランクルは第二次大戦の時にユダヤ人としてアウシュビッツ収容所に入れられた医学者です。「死」と向かいあう極限状況で、人間はいろいろな行動にできると著書「夜と霧」で書いています。

フランクルによれば人間が実現できる価値は創造価値、体験価値、態度価値の3つに分類されます。創造価値とは、人間が行動したり何かを作ったりすることで実現される価値です。仕事をしたり、芸術作品を創作したりすることです。体験価値とは、人間が何かを体験することで実現される価値です。芸術を鑑賞したり、自然の美しさを体験したり、あるいは人を愛したりすることでこの価値は実現されます。態度価値とは、人間が運命を受け止める態度によって実現される価値です。

病や貧困やその他様々な苦痛の前で活動の自由(創造価値)を奪われ、楽しみ(体験価値)が奪われたとしても、その運命を受け止める態度を決める自由が人間に残されている…フランクルはアウシュビッツという極限の状況の中にあっても、人間らしい尊厳のある態度を取り続けた人がいたことを体験しました。また、「(そのような状況でも)希望を持てた人は、所内に自分が必要としている人やモノを見い出していた」と記しています。フランクルは人間が最後まで実現しうる価値として、態度価値を重視したのです。

人生とは、生涯にわたる問いと答えの繰り返し

幸せになるのを邪魔しているのは、まさに「幸せを追求すること」それ自体なのである。世界とのつながりの中で人間を考えて初めて、苦しみの中にも意味があるということを理解できる。幸福とは、自己超越性、つまり果たすべき務めや愛すべき人間への献身を、その人が貫き通したその結果としてのみ、訪れてくるものだからである。ずっと意味のなかった人生、つまり無駄に過ごしてきた人生にさえも、最後の瞬間にその状況にどう立ち向かうかという、まさにその態度によって、なお意味を与えることができるのだ。“人生とは、生涯にわたる問いと答えの繰り返し”である。そして、答えに関しては、生涯をかけて答えていくことだけが可能なのだ。(フランクル『生きる意味を求めて』)

フランクルの「医師による魂の癒し」の中で、「人間が人生の意味はなにかと問う前に人生のほう人間に問いを発してきている。人間は人生に問われている存在なのである。人間は人生からの問いに答えなくてははいけない」と述べています。「人生の意味」はすでに与えられている。どんな意味が与えられているのかを求めるとは、既に与えられている意味を実現できるかどうか問われているということです。それは、どんな人生にも意味があるということです。

60年以上に渡って読み継がれてきた名著

フランクルは、第二次世界大戦中、ユダヤ人であるが為にナチスによって強制収容所に送られました。この体験をもとに著した『夜と霧』は、日本語を含め17カ国語に翻訳され、60年以上に渡って読み継がれ「言語を絶する感動」と評されています。原文のタイトルは『それでも人生に然りと言う：ある心理学者、強制収容所を体験する』。邦題「夜と霧」は夜陰に乘じ、霧に紛れて人々が連れ去られ消された歴史的暗部を比喻したもの。発行部数は英語版だけでも900万部に及び、1991年のアメリカ国会図書館の調査で「私の人生に最も影響を与えた本」のベストテンに入りました。

「夜と霧」が日本で出版されたのは、第二次大戦からまだ11年しかたっていない1956年。ナチスの強制収容所について、まだあまり知られていなかった当時、この本の日本語版を出そうとした人たちの慧眼には驚かされます。知る人ぞ知る名著として読みつがれ、重いテーマにもかかわらず、これまでに日本でも累計100万部が発行されました。読売新聞による「読者の選ぶ21世紀に伝えるあの一冊」のアンケート調査でも、翻訳ドキュメント部門の第3位となっています。日本語版(新版)訳者の池田香代子さんは、あとがきで「若いころこの本に出会って感動し、影響を受けた者はおびただしい数にのぼるだろう。私もその一人だ。高校生の時に読んで震撼し、そこにうねる崇高というべき思念の高潮に持ち上げられ、人間性の未聞の高みを垣間見た思いがした。」と述べています。



- ★祝福しなさい。その運命を。信じなさい。その意味を。
- ★生きることに意味があるなら、苦悩することにも意味があります。
- ★人は失望によって死に、希望によって生きる。
- ★人生におけるミッションというものは作るものではなく発見するものである。
- ★すべての人は人生における独自の使命、あるいは仕事を持っている。
- ★人は人生の意味とは何であるかを問うべきではない。むしろ自分が人生に問われていると理解すべきである。一言で言えば、すべての人は人生に問われているのだ。
- ★あらゆるものを奪われた人間に残された最後の自由とは、どんな状況にあっても、その中で自分の態度を決めることだ。
- ★条件に屈するか立ち向かうかは自分で決められるのだ。最終的な自己決定権はわれわれの側にある。
- ★苦悩があるから成熟する。苦悩したからこそ新しく成長できる。喪失、艱難、苦悩は人に豊かなものを与えてくれる。

- ★成果がなかったということは、無意味だったということではない。たとえば、恋愛に成功しなかったということが、無駄だったとか、心を痛めただけだったということの意味しているのではない。なぜなら、その苦悩の中で人はたくさんのものであるからだ。
- ★人間が本当に求めているものは安全などではない。目標に向かって努力し、苦闘することなのだ。
- ★気持ちが萎え、ときには涙することもあった。だが、涙を恥じることはない。この涙は苦しむ勇気を持っていることの証だからだ。どんな時も人生には意味がある。どんな人のどんな人生であれ、意味がなくなることは決してない。だから私たちは人生の闘いだけは決して放棄してはいけない。
- ★自分の胸に聞いてみてください。正直に、真剣に考えてみてください。過去の人生から、たとえば恋愛経験から悲しい体験を消してしまいたいのか、そのとき苦しみ悩んだ出来事、「苦悩の体験」の出来事のすべてがなかったらよかったと思うかと。たぶん、誰だってノーというでしょう。
- ★自分の可能性が制約されているとうことが、どうしようもない運命であり、避けられず逃れられない事実であっても、その事実に対してどんな態度をとるか、その事実はどう適応し、その事実に対してどうふるまうか、その運命を自分に課せられた「十字架」としてどう引き受けるかに、生きる意味を見いだすことができるのです。
- ★人間に必要なのは何としてでも不安を取り除くことではなく、意義の達成に使命を感じることである。
- ★幸福は追求され得ない。それは結果として生じるものでなければならない。
- ★誰もその人の身代わりになって苦しみをとことん苦しむことはできない。この運命を引き当てたその人自身がこの苦しみを引き受ける事に、ふたつとない何かを成し遂げるたった一度の可能性はあるのだ。
- ★生きること自体、問われていることにほかなりません。私たちが生きていくことは答えることにほかなりません。悲劇に直面していても幸せな人はいる。苦しみに関わらず存在する意味ゆえに。
- ★私が思うに、人生の意味について悩むということは精神的な病を表しているというより、むしろその人が人間であるということ を証明するものなのではないだろうか。人が意味を求めていくことは、人間にしか見られない顕著な特質だからである。
- ★人は常に生きる意味を探し求めている。いつも意味の探求に向かっているのである。
- ★自分自身を変えることは、しばしば、自分自身を乗り越えることを意味する。自分自身を超えて成長することを意味する。
- ★人生は豊かな意味で満たされている。しかも無条件に。